

第2期熊谷市子ども・子育て支援事業計画（案）に対する御意見と市の考え方

1 意見募集期間

令和元年12月18日（水）から令和2年1月20日（月）まで

2 意見の提出者数及び意見等件数

提出者数 3名

意見等件数 5件

3 意見の内容と市の考え方

該当箇所	意見の内容	市の考え方
<p>第2期子ども・子育て支援事業計画（案）</p>	<p>子供を生んだ人にとっては苦を減らす策は大切と思うが、子供を生みたいと思う人の数を増やすには効果的とは言えない。</p> <p>近年の交流支援や補助事業で人々の理解が深まり熊谷市では地域の協力も含めて良い方向に行っていると思う。しかし、働く世代は忙しく少子化の影響もあり地域事業への参加意識は乏しくこのままではいずれ意識の断絶が起こり子育てを地域で受け止めるにも彼らの参加は必要不可欠だろう。</p> <p>子供と親が地域で参加できる事業をより活性化させ未来の地域コミュニティの維持に活かすことは割合で言えば年寄りの補助より優先すべきと思う。</p> <p>子育ての難しさを軽減するだけでなく楽しさを増やさなければ 出生率は増えない。「生んでもそんなに大変じゃないですよ」だけではなく「生むと楽しいですよ」が必要。</p> <p>「雨の日でも遊べる施設」「若者の集えるゆったりした空間」「おもちゃバザー、子供服バザー」など「子育てが楽しい町」として市の方針として打ち出すべき。</p> <p>イオンの空きスペースや マミーマート等の駐車場などをイベント会場として使うことも検討して良いと思う。</p> <p>商売にも役立つし 資金を出す者も増えるだろう。</p>	<p>近年、核家族化や地域コミュニティの希薄化等により、子どもや家族を取り巻く環境も大きく変化する中、安心して子どもを生み、育てることができる子育て環境を整えることが重要であることから、本計画（案）に、子ども・親・地域・社会それぞれの視点を考慮したさまざまな子育て支援施策を盛り込んでおります。計画の推進に当たっては、家庭、行政、地域、教育・保育機関、企業が連携を図りながら、すべての子どもたちが健やかに成長できるよう「子どもたちの笑顔があふれるまち熊谷」を目指し、子育て支援を積極的に取り組んでまいりたいと考えております。</p> <p>また、現在、雨天でも安心して子どもを遊ばせることのできる屋内遊戯施設の整備について検討しております。</p>

該当箇所	意見の内容	市の考え方
P 4 1 イ 地域子育て 支援拠点事業 【確保方策の 考え方】	【確保方策の考え方】の2行目「育児不安等についての相談・指導、子育てサークルへの支援、育児情報の提供など、」の「指導」ではなく「援助」の方がいいと思う。	御意見のとおり修正いたします。
一時預かりについて	一時預かりの充実について、利用者支援事業「くまっこる一む」での相談で、『一時預かりを実施している保育所に電話をしたが、どこも空いていないと断られた。』という相談が多い。ファミサポなどもあるが、時給なので金銭的に何日も利用できない。本当に困っている人が多い。	一時預かりにおいても保育士の配置基準を満たした上でお子様をお預かりする必要があることから、日毎に、それ以上のお子様のお預かりができないことがあります。 市といたしましては、保育士確保に繋がる支援策を継続し、一時預かりのニーズへの対応をまいります。
企業への女性の働き方改革の啓発について	子どもをもつ女性が働きやすいように事業所に研修を行うなど啓発はできないか。	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するため、労働セミナー、男女共同参画に関する講座、啓発資料の配布等を通じて、育児休業制度等の周知・啓発を行い、事業所に対し就労環境の整備が進むよう働きかけるとともに、子育てしやすい職場環境づくりに積極的に取り組む事業所に対し、表彰や認定を行い、意識向上に努めております。 ワーク・ライフ・バランスの推進のため、引き続き事業所に対し働きかけてまいります。

該当箇所	意見の内容	市の考え方
<p>P 8 2 「(3) 障害児施策の充実」</p>	<p>事故や病気での中途障害である小児の高次脳機能障害(高次脳機能障害を有する障害児)を早期発見し、早期に診断につなげ、さらに早期に相談支援事業などに対応していくことを施策に盛り込んでください。</p>	<p>平成31年4月に「障害者基幹相談支援センターくまさぼ」を開設し、さまざまな相談に応じて必要な情報を提供しています。障害者基幹相談支援センターが相談支援の中核的な役割を担い、相談体制の更なる充実を図りますので、「キ 各種支援制度の充実」に「5 相談支援体制の充実」を追加します。</p>